

流るる ささぶね

～文集で振り返る田方の60年～



「ささぶね」は、戦後から現代まで、田方の小学生たちの作文をつづってきた文集です。今年の田方広報研究会共同編集は「流るるささぶね」文集で振り返る田方の60年。おじいちゃんもお母さんも、この特集を読んで、小学生だったあの頃に帰ってみましょう。

60年前 昭和37年 の ささぶね より



*スペースの都合により、作文は一部省略しています。文中の漢字・平仮名が混在する表記は原文のまま掲載しています。

オリンピックを見て

わたしたちは、十月六日に神奈川県との県境で聖火をむかえた。多くの人がたがひかえにきていた。開会式から閉会式までの二週間、テレビと新聞にかじりつくようにして、東京オリンピックの感じを味わった。よく見たのは、レスリング、重量あげ、体そう、バレーボール、水泳だ。わたしは、今までプロレスを見るのがとても好きだったが、レスリングを見て、プロレスがつまらなくなかった。それは、みんなが、規則を守ってやっているの、とても気持ちがいいからだ。オリンピックを見て気持ちよかったのは、カいっばい戦いぬいて勝ち、表しよう台の上



昭和39(1964)年
42号掲載

に立って、いかにもうれしそうな選手の様子を見ることが。また、表しう台の選手が、たがいにあく手をかわし、メダルを手にして、みなにほこらしげに見せる時の顔、わたしたちまでうれしくなる。アメリカの国歌、ソ連の国歌ともなじみになった。そして、日本の君が代と一しよにある日の丸。なみだの出そうなその時の感じを、わたしは忘れられない。

(函南小6年)

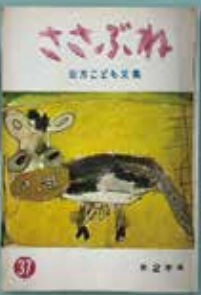
おづかい

ぼくのおづかいは、十日分ずつくれることになっている。中学のねえちゃん、一ヶ月まとめてもらうが、ぼくは二百円ずつもらう。ところが、ぼくは、四、五日で全部つかってしまふ。あと五日間、とても待ってられない。そこでねえちゃんから借りるのだが、だんだん借金が多くなってしまう。たんとたまと、貸してはくねくなる。

なぜ借金がたまるかというと、どうもそくせきラーメンのせいだと思ふ。ぼくはラーメンがすきだし、それが三十円もするのでたまらない。

ぼくはお手伝いやおづかひの時、お金をもらってこづかひかせぎをする。なんとかむづかひを少なくして、きめられたこづかひでたりるようにして、りん時の収入は貯金したい。だが、いままでのくせがなかなかおらないので苦労している。

(八岳小6年)



昭和38(1963)年
37号掲載

大仁町

わたしの町は、大仁町です。北にはふじ山が見え、東の箱根山の右手の方には伊豆スカイラインが見えます。スカイラインは、オリンピックころには、かんせいするそうです。南の天ぎ山からは、かの川が流れだし、するがわんにそそいでいます。夏になるとあゆつりの人たちが大ぜいつりざおをたれています。とくに、かわっているのはともつりです。このやさしい川もかの川たいふうのようなきがいをおこすことがあるので、ゆだんはできません。

東洋じょうそうでは、力正むねと



昭和38(1963)年
39号掲載

いうおさけや、ジュース、ちかごろはロイコマインやペニシリンも作っています。おさけは、ピンあらいも、つめるのもオートメーションだそうです。また、東しば電気は、たくさん電気ぎくを作つて、ゆしゆつもしているそうです。もっと大きくなって、きっと大仁町のためにやってくれると思います。

(大仁小4年)

おとうさん

うちのおとうさんは、いつもばりきで木や石をだしに行っています。朝、おとうさんは馬や牛にかいばをくれ、どつぐをそろえたり、馬にブラシをかけます。石は、とってもおもたいそうです。道がわるいので、ふくもズボンもどろだらけでかえってきます。わたしは、ほんとに大へんだな。と思いました。「おかえりなさい」というと、「おとなしかったかね。ベンキようは、なににき



昭和37(1962)年
36号掲載

た」といいます。おとうさんは、馬がさむくないように、わらのこくずを入れてやると、きもちよさそうにせなかを下にしておきあがります。ブルブルとからだをふって、「ごみをおとします。」

(葦山小2年)

約60年前の物価

- バナナ 1kg 228円
- 中華そば(外食) 59.4円
- 新聞代 1カ月 450円
- 映画鑑賞料(大人) 221円
- 郵便料 封書 10円、はがき 5円
- 1ドル/円 360円

- 昭和40(1965)年
- ・函南町制施行
- ・狩野川放水路完成

- 昭和38(1963)年
- ・伊豆スカイライン開通

- 昭和37(1962)年
- ・葦山町制施行
- ・かつらぎ山ロープウェイ完成

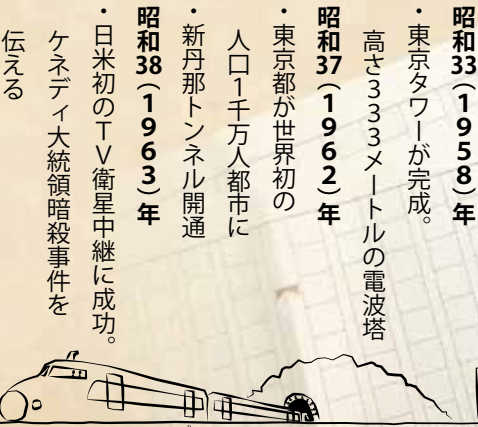
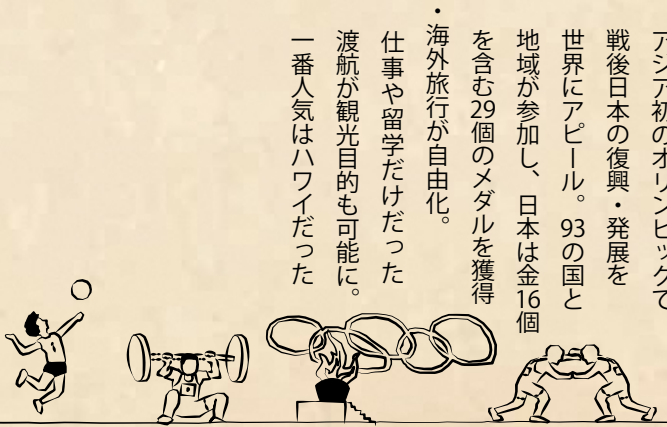
- 昭和36(1961)年
- ・天城湯ヶ島町制施行

- 昭和35(1960)年
- ・大仁町へ編入

- 昭和34(1959)年
- ・北狩野村を分村し、修善寺町と

- 昭和33(1958)年
- ・中伊豆町制施行
- ・狩野川台風襲来、伊豆被害甚大

約60年前の田方



約60年前の日本

- 昭和33(1958)年
- ・東京タワーが完成。
- ・高さ333メートルの電波塔
- 昭和37(1962)年
- ・東京都が世界初の人口1千万人都市に
- ・新丹那トンネル開通
- 昭和38(1963)年
- ・日米初のTV衛星中継に成功。
- ・ケネディ大統領暗殺事件を伝える
- ・黒部第四発電所(黒四ダム)完成
- 昭和39(1964)年
- ・東海道新幹線が開通。東京・大阪を最高時速210km、4時間で結んだ
- ・東京オリンピック(1回目)開催。
- ・アジア初のオリンピックで
- ・戦後日本の復興・発展を世界にアピール。93の国と地域が参加し、日本は金16個を含む29個のメダルを獲得
- ・海外旅行が自由化。
- ・仕事や留学だけだった渡航が観光目的も可能に。
- ・一番人気はハワイだった

30年前 ささぶねより



げたマラソンに出場

四月二十九日、日曜日に、ぼくは、いとこの大ちゃんと一緒に、かそくをしてげたマラソンに出ました。

ぼくは、エスパルスの顔にぬる青色で顔におけしをしました。りょう目にぬり終わると、やくざに目をなぐられたようでした。そして、Donald Duckのふくをききました。おきやくさんが「かわいいね。」と言ってくれたのでうれしくなりました。

アクシスカつらぎへ行ったら、みんながスタートのじゅんぴをしていたので、いそいで走って行きました。



ぼくといこのしんぞうはドキドキしていました。ピストルが、「パン」となり、いっせいにスタートをしました。どんな人をぬかしていった、三番に入り、トロフィーとしようじようをもらいました。とっても楽しくて、まだ出たいなと思いました。

(長岡南小3年)

どんなことしたのかな

やすみのとき、ふじみらんどへきようりゆうをみにいきました。ていらのさつるすがきはむいてこつちをむいて、ぼくはおどろいたの。おかあさんがしやしんをとってくれたの。

(蕨山小1年)



平成6(1994)年
130号掲載

うさぎの世話

ぼくは、今日、うさぎ当番です。八岳小では、四年生になると、うさぎとチャボの飼育をします。

男子は、うさぎにちゃんと名前をつけています。マッド、ジャッキー、マイケルという名前をつけました。3ひきいっしょにしているの、色もよつで区別しています。

うさぎは三つ葉、ラビットフード、リンゴ、にんじんなどを食べます。当番の前日には、みんな、えさをたくさんつんできます。

小屋の中ばかりではかわいそうなので、グラウンドに放したら、みんながよつてきて、さわっていました。一羽は、目の前の葉をむしやむしや食べていて、腹痛にならないかなと思いました。ぼくは、うさぎがにげないよう見はりをしていました。うさぎも広い世界に出て、うれしそうでした。

うさぎはかわいいです。去年二羽も死んでしまったので、ぜったい死なせないよう、かわいがります。

(八岳小4年)

約30年前の日本

平成6(1994)年

- ・日本人初の女性宇宙飛行士 向井千秋を乗せたスペースシャトル打ち上げ
- ・関西国際空港 関空開港
- ・大江健三郎ノーベル文学賞受賞
- ・プロ野球、史上初の最終戦首位同率決戦。中日対巨人(10・8決戦)
- ・『ブレイクステーション』
- ・『セガサターン』など



- ・次世代ゲーム機発売ラッシュ
- ・大相撲、大関貴乃花光司が四場所優勝し横綱に
- ・Jリーグ、ヴェルディ川崎チャンピオンシップ年間優勝



- ・阪神淡路大震災発生
- ・オウム真理教

- ・地下鉄サリン事件発生
- ・大相撲、史上初の兄弟優勝決定戦(若貴対決で兄・大関若乃花が弟・横綱貴乃花を破り優勝)



約30年前の田方

平成5(1993)年

- ・JA伊豆の国が誕生
- ・函南町制30周年記念事業
- ・函南BIG KAN CANまつり開催



- ・日本サイクルスポーツセンターで国際サイクルロードレースを初開催
- ・平成7(1995)年
- ・函南町に日守山公園開園
- ・伊豆の国市に特別養護老人ホーム『ぬくもりの里』完成

- ・函南原生林、水源の森百選認定



約30年前の物価

- ・バナナ 1kg 203円
- ・中華そば(外食) 515円
- ・新聞代 1カ月 3,850円
- ・映画鑑賞料(大人) 1,800円
- ・郵便料 封書 80円、はがき 50円
- ・1ドル/円 99.58円



現代 ささぶねより



新がたコロナウイルスから 学んだこと

長岡南小4年 鈴木悠真

令和二年一月から日本で新がたコロナウイルスがはやり始めました。初めは、え体の知れない新しいウイルスのせいでマスクや消臭スプレーが売り切れになりました。その時は、みんなこんなに長く続くと思っていなかったと思います。

三月になってとつ然、学校が休校になりました。休校になっても、どこにも遊びに行けなくなって、たいていつでした。その後、きん急事たいせん言が発令されて、スイミングやじゅくも休みになってしまいました。その時、ぼくは（本当に大変な事が起きているんだ。）と思いました。このような生活が続く中で、一番変わったことは、人と人の間かくを空けること、マスクを着用すること、手洗いをてつていすることです。中でも、ぼくが一番つらかったのは、学校行事がふ通にできないこ

とです。運動会や参観日も今までとやり方が変わってしまいました。給食の時も、今までは、みんなと楽しくおしゃべりしていたのに、今では、全員前を向いてだまって食べています。そんな毎日のもういやだというのがぼくの気持ちです。

だけど、ぼくはがまんします。毎日、感せんのリスクがありながら働いてくれる病院の人たちや、ぼくたちに勉強を教えてくれる先生方、色々な人たちに感しゃして毎日をすごします。なぜならば、それが今、ぼくにできることだからです。いつ終息するのか分からないし、いつ感せんするかも分からないからです。でも、いつかまた、楽しい日々が帰って来ると思います。だから、ぼくは今でできることをがんばっていきます。



令和3(2021)年
186号掲載

オリンピックを見に行つたよ

土肥小中一貫校2年 勝呂紘介

ぼくは、お母さんとお兄ちゃん、オリンピックの女子のマウンテンバイクを見に行きました。会場には、ほかの学校の人たちがそだてたアサガオのはちが、ならんでいました。（ぼくのアサガオも、パラリンピックの時に、こんなふうにかざられるんだ。）と思いました。

マウンテンバイクは、さか道や石でこぼこしているところを走ります。がけの上の道では、せん手がおちないか心ばいになりました。コロナで大声を出せないで、心の中で、（がんばれ。）と思いながら、手をたいておうえんしました。



家に帰ってから、見に行けなかったお父さんに、レースのようすを教えてあげました。お父さんは、「すごかっただね。見に行けてよかったね。」と言ってくれました。

現代の日本

令和3(2021)年

- ・新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の範囲に2府6県を追加
- ・第1回大学入試共通テスト実施
- ・東京オリンピック・パラリンピックが近代オリンピック史上初めて1年延期の後、ほぼ無観客で開催（伊豆会場など一部を除く）

令和5(2023)年

- ・新型コロナウイルス感染症の法的位置付けを第5類に変更
- ・将棋の藤井聡太史上最年少七冠達成
- ・消費税の仕入れ控除の方式としてインボイス制度が開始



現代の物価

- ・バナナ 1kg 314円
- ・中華そば(外食) 681円
- ・新聞代 1カ月 3,732円
- ・映画鑑賞料(大人) 1,900円
- ・郵便料 封書 110円、はがき 85円
- ・1ドル/円 149.99円

ささぶねを読んでみよう

- 伊豆市
 - ・伊豆市立修善寺図書館
 - 伊豆の国市
 - ・伊豆の国市立中央図書館
 - 函南町
 - ・函南町立図書館（かなみ知恵の和館内）
- ※一部、図書館に所蔵されていない号もあります。

田方広報研究会とは…

- 伊豆市・伊豆の国市・函南町・JAふじ伊豆・伊豆保健医療センターの各広報担当者で構成される、広報紙の進展とその適切な調整を図ることを目的とした研究会です。

ぼうさいキャンプで 学んだこと

丹那小4年 川口大地

ぼくは、今年、五年生といっしょにぼうさいキャンプをやりました。今年から始まった新しい行事でした。この中でも、三つのことをしようかします。

一つ目は、ハザードマップを使って、自分の家の近くがあらぶないかなどを調べ、大きい地図にまとめたことです。この地図作りをしているときに、同じグループの人と「ここがあらぶないね」「この道がふさがれたらひなんできないね」と、話しながら進めました。地図を作ることで、自分の家の周りのあらぶないところを知り、どこにひなんすればいいかなどがわかりました。

二つ目は、ぼうさい調理でカレーを作ったことです。まず、お米は、高みつ度ポリぶくろに入れて、お湯の入ったなべに入れました。

やる前は、「ちゃんとしたごはんができない。」と思っていました。でも、やってみたらちゃんとしたごはんができて、「（できるんだー）と思いました。ポリぶくろで作ったカレーも、



令和5(2023)年
188号掲載



しっかり作
れていてお
いしかった
です。
三つ目は、
起しん車体
験です。起
しん車に乗
る前は、楽
しみにして
ました。でも、
乗ってみたら
大きくゆれて、
（南海トラフ
きよ大地しん
はすごくあら
ぶないんだ。）
と思いました。
地しんは、い
つ来るかわか
らないから、し
っかりぞなえ
ておきたいと
思いました。

ぼうさいキャンプで、地しんのあらぶなさや、高みつ度ポリぶくろで料理ができることなどを知ることができてよかったです。このけい験を、本当にさい害が起きたときに、生かしたいと思いました。

あとがき

「やまぶね」は、昭和26(1951)年の創刊以来、70年以上にわたり田方の小学生の作文や詩をつづってきました。その作品からは、當時を生きる小学生が見た文化や世相が読み取れます。

この特集記事を読んで皆さんも感じたように、時代が移り変わるにつれて私たちの生活も変わり続けてきました。新しいものができれば、無くなったものもあります。しかし、環境が変わってもあなたが小学生時代を過ごした田方が「ふるさと」であるということが変わりません。

いつまでも、小学生の頃を過ごしたことを忘れないでほしい。いつまでも、ここに帰りたいと思つてほしい。田方はいつも、あなたの憩いの場所であり続けるから。

